

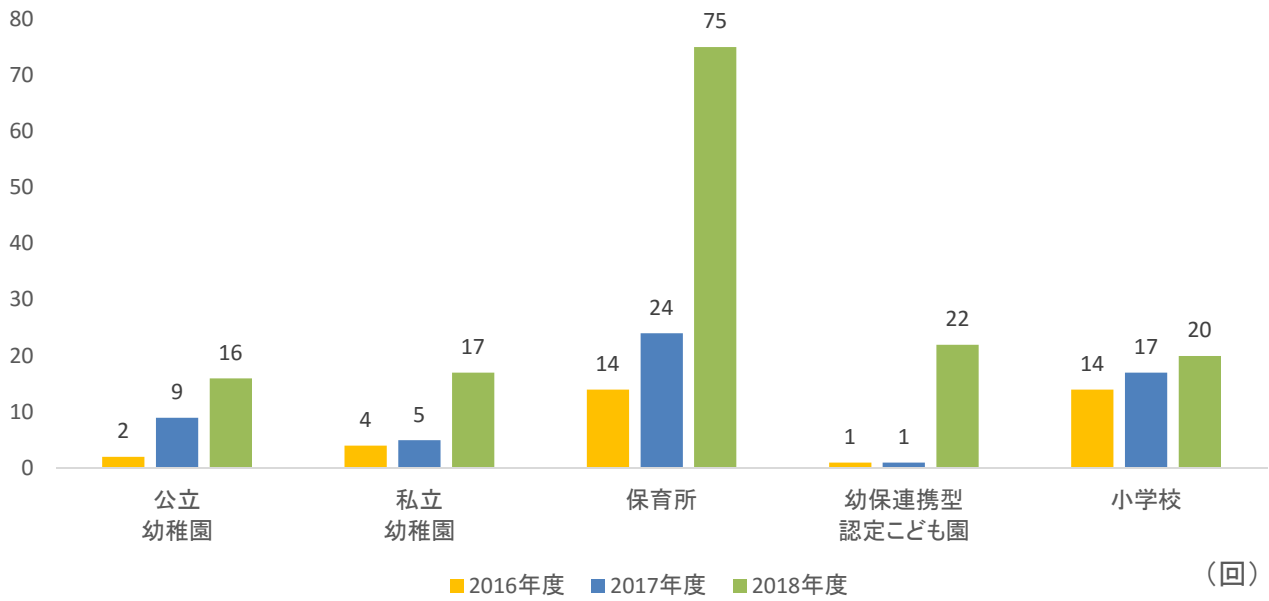
平成 28 年度～平成 30 年度「幼児教育の推進体制構築事業」最終報告書

調査研究テーマ	(ア) 幼稚園、保育所、認定こども園等を巡回して指導・助言を行う「幼児教育アドバイザー」の育成・配置に関する調査研究 (ウ) その他、幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制に関する調査研究
調査研究目的	幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制に関する調査研究を行い、幼児期と児童期のスムーズな接続を実現させる。
調査研究課題	小学校と幼稚園・保育所（園）・認定こども園を巡回する幼児教育アドバイザーを配置し、相互の職員への指導を行うとともに、名張版「スタートカリキュラム」を策定し、指導内容・指導方法を明確にする
実施期間	平成 28 年 5 月 17 日～平成 29 年 3 月 31 日 平成 29 年 4 月 5 日～平成 30 年 3 月 30 日 平成 30 年 4 月 20 日～平成 31 年 3 月 29 日
事業担当課	教育委員会事務局学校教育室 福祉子ども部保育幼稚園室

【基礎情報】

① 規模															
人口		78,864 名（平成 30 年 10 月 1 日時点）													
② 幼児教育関連業務の担当部署															
担当部署		①教育委員会事務局学校教育室 ②福祉子ども部保育幼稚園室				業務内容（業務分担）				①幼稚園に対する指導等②幼稚園・保育所（園）・認定こども園に対する保育指導、人事、施設設備管理等					
一元化の有無		無				一元化の開始時期				-					
一元化した部局		-													
③ 幼児教育センター（H30 年度）															
設置年度		平成 28 年度 4 月設置				設置形態		部署間連携							
設置場所		・本庁（教育委員会） ・本庁（首長部局） ・子どもセンター				人数		担当者 6 名（うち、常勤 2 名、非常勤 4 名）							
主な業務内容		・公立保育所・幼稚園・私立保育園・認定こども園・小学校への指導業務 ・幼児教育の推進体制構築事業に係る事務 ・研修会の主催													
④ 幼児教育アドバイザー（H30 年度）															
名称		人数（単費内訳）				雇用形態				主な経歴					
幼児教育アドバイザー		2 名				賃金（2 名）				元公立小学校長、元公立幼稚園長 元公立小学校教頭、元公立保育所長					
主な業務内容		・保育所（園）・幼稚園・認定こども園、小学校巡回による指導・助言 ・接続カリキュラムの作成 ・研修会の企画・運営													
派遣対象地域		市内全域													
⑤ 全幼稚園数、認定こども園数、小学校数、保育所数（園）															
※ 幼稚園・小学校：平成 30 年 5 月 1 日現在、認定こども園・保育所：平成 30 年 4 月 1 日															
幼稚園			幼保連携型 認定こども園			保育所			地方裁量型 認定こども園			小学校			
うち、幼稚園型 認定こども園						うち、保育所型 認定こども園									
5 園			- 園			2 園			1 4 園			- 園		1 4 校	
国	公	私	国	公	私	国	公	私	公	私	公	私	公	私	
-	2	3	-	-	-	-	-	2	4	10	-	-	-	-	

幼児教育アドバイザーの訪問回数(年間)



※ 公立幼稚園数には、国立と公立を含む。

【調査研究の目的、内容、成果及び今後の課題】

<p>1. 事業受託前の取組状況</p> <p>当市ではこれまで、小学校教員と幼児教育関係者が一同に会し相互の指導状況を交流することによって就学前教育と小学校教育とをつなぐための相互理解を深めるとともに、個々の教職員の指導力向上を図ってきた。また、一方で、福祉子ども部子ども発達支援センターと教育委員会教育センターがおかれている子どもセンターを拠点として、福祉・教育の連携による0歳から18歳までの途切れのない支援の構築を進めてきた。</p>
<p>2. 事業を受託した経緯</p> <p>近年、本市の特徴的なこととして、一つの小学校に複数の幼稚園・保育所から就学する子どもが数多く見られるようになり、こうした状況と相まって、いわゆる小1プロブレムの状況が多く見られるようになってきた。</p> <p>そこで、本事業を受託し、幼稚園・保育所（園）・認定こども園を巡回する幼児教育アドバイザーを配置して、就学前段階の子どもの状況を把握し、相互の職員への指導を行うとともに、名張版「スタートカリキュラム」を策定し、幼児期と児童期のスムーズな接続をめざすこととした。</p>
<p>3. 調査研究の目的及び内容</p> <p>(1) 目的</p> <p>幼稚園・保育所（園）・認定こども園と小学校のスムーズな接続を旨とし、名張版「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」により手立ての共有化を図るとともに幼児教育アドバイザーの活用により、実際場面での指導・助言に活かす。</p> <p>(2) 内容</p> <p>①幼児教育アドバイザーの巡回訪問による指導・助言</p> <p>幼児教育アドバイザーによる幼保こども園・小学校の巡回により、市内の接続期の児童の状況把握を行い、児童の観察、所属長・担任への聞き取りをする中で有効な指導内容・指導方法・手立てを探った。</p> <p>②「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」の実施と検証</p> <p>就学前から中学校までの10年間を見据えた「接続期のカリキュラム」を作成するとともに、有効な手立て、指導方法についての実践・検証を行った。</p> <p>③研修機会の充実</p> <p>幼・保・小接続のための研修会、園内リーダー研修会等、園内体制整備や教員の支援・指導力向上のための有効な研修を実施した。</p>
<p>4. 3年間の取組・成果・課題</p> <p>(1) 取組</p> <p>①5歳児担任、小1担任へのアンケートによる接続期の子どもの状況把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事業開始にあたっての状況把握と取組の検証を目的として、平成28年度と30年度に5歳児担任、小1担任を対象としたアンケート調査を行った。 ● 就学前から小学校へのスムーズな接続に関して、保育・教育関係者の意識調査及び、就学前段階と小学1年生の子どもの状況調査を行った。 ● 調査結果を、幼児教育アドバイザー巡回や接続期カリキュラムの作成、研修会の計画に活用した。 ● 事業1年目と3年目にアンケートを実施し、取組の効果について検証した。 <p>②幼児教育アドバイザーの巡回による接続期の子どもの状況把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 接続期の子どもの状況把握と接続期の保育・教育に関する指導・助言を行うことを目的として、市内公立私立全ての5歳児が在園している幼稚園・保育所（園）・認定こども園及び市内全小学校を対象に、幼児教育アドバイザーによる巡回を行った。 ● 幼稚園・保育所（園）・認定こども園の巡回では、園長からの聞き取り及び保育観察により、就学前段階の子どもの状況を把握した。また、「幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿」を意識した保育の在り方や「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」に基づいた保育の在り方について、指導・助言を行った。 ● 小学校巡回では、管理職教員や1年担任からの聞き取り及び授業観察により、小学1年生の子どもの状況を把握した。また、幼稚園・保育所（園）・認定こども園からのスムーズな接続を意識した教育の在り方について、具体的な事例を紹介するなどして指導・助言を行った。 ● 状況把握により判明した課題を、接続期カリキュラムの作成や次の巡回での指導・助言、研修会の計画に活用した。 ● 巡回の中で、幼稚園・保育所（園）・認定こども園と小学校との交流について、双方において具体的な事例を紹介するなどして、取組を推進した。 ● 事業1年目は、園訪問については、教育委員会が計画した巡回日程に従って行っていたが、事業が進展する中で、アドバイザーが必要に応じて園と連絡を取り合って日時を決め、訪問するようになった。 <p>③「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 就学前段階から小学校へなめらかな接続をめざし、指導内容・指導方法を明確化すること目的として、市としての接続期のカリキュラム「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム（試行版）」を作成した。 ● 幼稚園教育要領の5領域と「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」をふまえて、6つの重点カテゴリとそれぞれのカテゴリに10の重点内容を設定し、幼児期の保育・教育から学校教育への接続を考えていけるようにした。 <p>④接続カリキュラムに基づく実践の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム（試行版）」の検証と他園への取組の推進啓発を目的として、モデル園3園を指定し実践検証を行った。 ● カリキュラムに基づく保育実践からエピソードを抽出し、幼児の「学びの芽」の育ちを考察するとともに、カリキュラム内容の見直しを図った。 ● モデル園での実践をまとめた「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム実践事例集」を作成し、市内の全幼稚園・保育所（園）・認定こども園及び小学校教員に配付し、カリキュラムに基づく実践を推進した。

- 私立を含め市内全園でより接続期の保育について検討できるように、平成30年度は、「ばりっ子ピカピカ小1学級体験プロジェクト」との連携により、カリキュラムに基づく保育実践を巡回の中で出前保育的に行うようにし、実践検討を行うようにした。

⑤公開保育・公開授業の実施

- 実態把握により、保育・教育の内容に関わっては、幼児教育保育関係者と教育関係者双方の意識に差異があることも見えてきたことから、保育・教育の職員が互いに保育・教育を参観し、その内容や目的を共通理解できるよう、公開保育・公開授業を年度内に1回ずつ実施した。

⑥実践報告会・実践交流会の開催

- 市内への取組の推進啓発を目的として、市内全幼稚園・保育所（園）・認定こども園及び小学校の職員の参加による、名張市幼児教育の推進体制構築事業実践報告会を各年度末に行った。
- 事業最終年度には、幼稚園・保育所（園）・認定こども園及び小学校職員で、グループ別に実践交流会を行い、相互理解と接続期の保育・教育の充実を図った。

⑦研修会の開催

<平成28年度>

実施日	研修会名	会場	参加人数	対象者
8月24日	研修講座「幼児教育」 講演：「保幼小の連携」 講師：三重大学 富田 昌平 准教授	名張市教育センター	40	保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校、行政関係職員
10月26日	公立幼稚園合同研修会 協議：「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラムについて」	名張幼稚園	20	名張幼稚園・桔梗南幼稚園教職員
3月3日	幼児教育の推進体制構築事業研修会 内容：事業実施報告会、講師による講義 講師：鈴鹿大学 田口 鉄久 教授	名張市教育センター	40	保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校、行政関係職員

<平成29年度>

実施日	研修会名	会場	参加人数	対象者
5月19日	幼稚園・保育所（園）から小学校へのスムーズな接続に関する研修会 講義：「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラムについて」	名張市教育センター	17	各小学校教員（1年生担任を必ず含む）、行政関係職員
7月2日	幼稚園・保育所（園）から小学校へのスムーズな接続に関する公開授業 内容：公開授業、協議会	桔梗が丘東小学校	27	保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、行政関係職員
8月8日	研修講座「幼児教育」 講演：「保幼小接続カリキュラムの可能性」 講師：鳴門教育大学 木下光二教授	名張市教育センター	50	保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校、行政関係職員
12月5日	幼稚園・保育所（園）から小学校へのスムーズな接続に関する公開保育 内容：公開授業、協議会	名張幼稚園	20	保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校、行政関係職員
3月6日	平成29年度幼児教育の推進体制構築事業実践報告会（保幼小合同研修） 内容：事業実施報告会、講師による助言 助言者：鈴鹿大学 田口 鉄久 教授	名張市教育センター	47	保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校、行政関係職員

<平成30年度>

実施日	研修会名	会場	参加人数	対象者
7月2日	就学前から小学校へのスムーズな接続に関する公開授業 内容：公開授業、協議会	蔵持小学校	24	保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、行政関係職員
7月25日	園内リーダー研修会 協議：「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」実践事例の検討 ・公立6園の実践事例に見られた「学びの芽」を分析	名張市教育センター	6	公立各園の園内リーダー
8月27日	研修講座「幼児教育」 講演：「幼児期後期から学童期にかけての子どもの発達と『接続』の支援」 講師：京都府立大学 服部恵子教授	名張市教育センター	48	保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校、行政関係職員

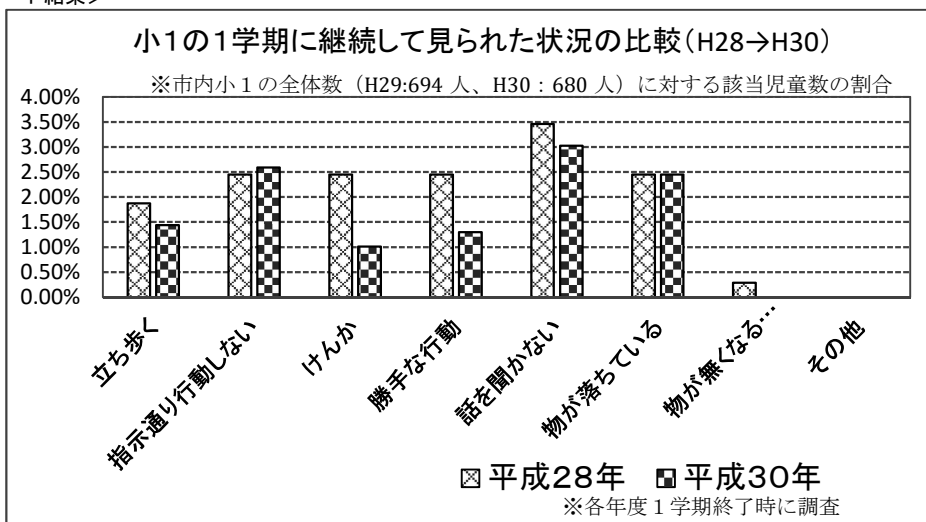
11月13日	公開保育研究会 内容：公開授業、協議会	名張幼稚園	76	保育所、幼稚園、認定こども園、 小中学校、行政関係職員
12月21日	園内リーダー研修会 協議：「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」実践事例の検討 ・公立6園の実践事例に見られた「学びの芽」を分析	名張市教育センター	6	公立各園の園内リーダー
2月25日	平成30年度幼児教育の推進体制構築事業実践交流会（保幼小合同研修） 内容：事業実施報告会、実践交流会、講師による助言 助言者：鈴鹿大学 田口 鉄久 教授	名張市教育センター	65	保育所、幼稚園、認定こども園、 小中学校、行政関係職員

(2) 成果

① 接続期の子ども の 状況 の 変化

平成28年度と平成30年度の小1担任へのアンケートによると、1学期に継続して見られた児童の状況として、小1プロブレムにつながる様子が2年間で減少していることが分かった。特に「授業中の立ち歩き」「けんか」「勝手な行動をする」といった項目での減少の幅が大きいことから、入学当初の児童の不安感が以前よりも解消されているのではないかと推察される。就学前から小学校教育を見通した保育がなされていることや、小学校側としても、就学前段階で育まれている子どもたちの力をふまえて指導にあたっていることの成果として、子どもたちが入学期から自分の行動にある程度の見通しをもつことができ、安心して小学校生活を送ることができるようになってきているものと考えられる。

<アンケート結果>



また、幼児教育アドバイザー巡回で聞かれた小学校側の声として、新入生には、1つの小学校に様々な園から入学することや、小学校の環境を全く知らずに入学することの不安が大きいのではないかという意見が多数の学校からあった。このような状況把握から、園と小学校との交流推進や、新たな市の事業としての「ぱりっ子ピカピカ小1学級体験プロジェクト」の実施につなげることができた。

② 接続期の保育・教育者の意識の変容

幼児教育アドバイザーの園巡回による園長との面談や保育観察を繰り返すにつれ、各園では、教員・保育士・保育教諭が接続期をより意識して保育実践にあたるようになっていった。平成30年度は、元小学校教員が各園を巡回して接続カリキュラムに基づく保育プログラムを実施する「ぱりっ子ピカピカ小1学級プロジェクト」と連携し、その保育実践の助言者として園を訪問することにより、就学を見据えた保育の在り方について、より深まった討議を行うことができた。私立保育園・幼稚園の巡回では、園長からの聞き取りや、教育計画等の資料提供により、具体的な各園の取組状況を把握でき、各園で独自に行われている有意義な取組等を公立・私立の他園へ情報提供することができた。特に、園と小学校との交流については、既に取り組まれている事例をアドバイザー巡回で紹介し、取組の推進を図っていったところ、平成28年度では2園しか取組を把握できなかったが、平成30年度には、20園中15園で小学生との交流や学校見学等を計画するようになった。

幼児教育アドバイザーの小学校巡回では、①のような入学期の子どもの状況が分かるとともに、教員の話し方や授業の進め方等、指導内容・方法について、就学前段階で行われていることとの違いが大きいことが分かった。そこで、接続カリキュラムの活用や接続期を意識した指導方法の改善について助言を行ってきたところ、教室環境の整備や一斉指導の中で個別の配慮等、就学前段階の保育内容や子どもの育ちを意識した取組が増えてきた。

③ 「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」の作成

平成28年度に作成した「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム（試行版）」に基づき、平成29年度には公立3園をモデル園として、実践検証を行うとともに、実践事例集を作成することができた。平成30年度は、公立全幼稚園・保育所で実践・検証を重ね（参考資料参照）カリキュラムの完成版を作成することができた。

接続カリキュラム及び実践事例集は、市内の全ての保育関係者と教育関係者に配布し、カリキュラムに基づく実践を広め、接続期の保育・教育の充実を図ることができた。

<参考資料：「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」重点内容の実践より見られた学びの芽>

◎名張市における接続期のカリキュラム

平成 28 年度より本市では、「幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制に関する調査研究を行い、幼児期と児童期のスムーズな接続を実現させる」ことを目標に文部科学省の「幼児教育の推進体制構築事業」の研究委託を受け、調査研究を行ってきました。「幼児教育アドバイザー」を配置し、小学校・幼稚園・保育所（園）・認定こども園を巡回して、相互の職員への指導を行うとともに、就学前教育から学校教育へのなめらかな接続をめざして指導内容・指導方法を明確化するために、接続期カリキュラムとして「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」を作成しました。

本市における接続期のカリキュラムは、幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、名張市のめざす教育の実現に向け、5歳児の4月から小学校1年生の3月までの2年間で、「幼児期における学びの土台の力」＝「学びの芽」を小学校における教科学習に丁寧につなぐ役割を担うものです。幼児期における「学びの土台の力」＝「学びの芽」は、小学校における教科学習への見通しをもちながら、遊びや生活の中で個々の発達や興味関心に応じながら育んでいくものです。接続期のカリキュラムは、これらの力が「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域の中で総合的に育まれることを前提としながら、名張市の子どもに育みたい力にてらし、幼児期における「学びの土台の力」＝「学びの芽」を6つの重点カテゴリとして抽出することで編成しています。6つの重点カテゴリは、<ことば><かず><からだ><しぜん><やくそく><つながり>としています。

これらの重点カテゴリを、小学校1年生の教科・領域の学習との連続性を意識し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の先を見通すために、教科・領域につなげていきます。

◎「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」重点内容に係る実践より見られた学びの芽

<ことば>

重点内容	実践より見られた学びの芽
①「絵本コーナー」で、絵本や図鑑に触れる。	身近な動物を飼育し継続して観察したり、わからないことやその特性を自ら図鑑で調べたりしていた。
②保育者が絵本の読み聞かせを継続することで、言葉に興味・関心を広げられるようにする。	読んでもらった本を何度も友だちと読みながら、言葉の繰り返しや表現を共有することを楽しんでた。
③なぞなぞ、しりとり、早口言葉や音節を意識した言葉遊びを楽しむ。	言葉を構成している音の数や並び、組み合わせを置き換えるなどして遊びながらいろいろな言葉や言葉のつくりや音に興味関心を持つようになった。
④保育者が子どもの言葉に共感し、豊かな言葉にして返すことで表現する土台を育む。	朝の会や帰りの会で経験したことを、どんなことがあって誰がどうしたなど、自分が面白いと思った場面や状況を、相手が分かるように言葉で表現しようとするようになっていった。
⑤地図や迷路遊びに興味をもち、絵や線を描く遊びを楽しむ。	自分と場所の位置関係が分かるようになり、自分の経験に基づいた手がかりを使って、保育園から探検に行ったところの道順を話したり、簡単な地図を描いたりした。
⑥話し合いで決まったことや予定などを保育者が書いておき、ひらがなに触れる機会を増やす。	保育室に掲示した予定（文字）や日付（数字）を見ながら、1日の予定を見通したり、楽しみにしている行事などについて、「今」を基準にして「昨日」と「明日」を理解して話をしたりするようになってきた。
⑦おはしの持ち方から鉛筆の持ち方の基礎を身に付ける。	紙を持ち方はさみで連続切りする活動、折り紙や指でつまんでまわすコマなどの操作活動、自由に線を引いたり形を描いたりする描画などの表現活動を通して、両手の協応をしっかりと経験している。
⑧カルタ・すごろく遊びをして、文字や言葉に興味・関心を広げる。	カルタ遊びなど簡単なルールのあるゲームを通して、カードの文字を見る、読む、探す、取る、確かめるなど、ひらがなや数字に親しむことができた。
⑨歌のなかの言葉に親しんだり、リズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。	クラス活動、で互いの声や音に耳を傾けながら、合わせて歌ったり奏でたりする楽しさを体験し、音やリズムに合わせて強弱や制止するなど、動きをコントロールできる力がついてきた。
⑩お手紙ごっこをしたり、小さな枠の中に絵や模様を描いたりして遊ぶ。	描画材料や絵や文字を描く遊びができるコーナーを保育室に用意すると、目の前にいない人にも気持ちを伝えようとしてメモや手紙を書き始めた。

<かず>

重点内容	実践より見られた学びの芽
①指さしのリズムと口（言葉）のリズムが合うように、1対1対応させて数える遊びをする。	数を競うゲーム（リレーのチーム分けなど）で、遊びの勝ち負けやゲームの公平さの判断に数・量を取り入れようとしていた。

②大きい小さい、長い短い、多い少ないなどを比べる機会を持つ。	日常の遊びや当番活動の経験を通して、見た目に変化しても加えたり取ったりしていなければ、その量は変わらないことが考えられるようになってきた。
③縄跳びの跳ぶ数など、続けて数える遊びをする。	大縄跳びで、より多く跳ぶことをめざして、跳び続けられた数をみんなで数えることができた。
④形を組み合わせたり立体に触れたりする遊びをする。	船や電車・建物など、ごっこ遊びで使うものを積み木で作ったり、ルールを考えて立体を組み合わせるゲームをしたり、遊びを発展させていた。
⑤身近なものの大小・長短・重い軽いなどいろいろなものを測る。	生活の中にある道具を選んで、いくつぶんあるかで比べようとしていた。
⑥身近な量の一番を見つける遊びをする。	みんなで育てているひまわりなどを大きい順から小さい順、小さい順から大きい順に並べたりしている。(絵本を大きい順に並べる、身長順に並ぶなど)
⑦玉入れなど、量の大小と数の大小を同時に比べる遊びをする。	運動会の玉入れで、競い合いを楽しみながら、籠に入った玉の数を数えることができた。
⑧少ない数で「合わせていくつになるか」クイズをする。	順序数の理解にとどまらず、数を量として認識することができるように、生活の様々な場面で「合わせていくつ」「この中から〇個ちょうだい」を経験した。
⑨5や10のまとまりのゲームをする。	人数集めゲームなどをして、数のまとまりを意識しながら遊ぶことができた。
⑩買い物ごっこなど、お金を使う経験を取り入れる。	「お店屋さんごっこ」で、店の品物に値段をつけたり、模擬硬貨で品物を売り買いしたりして遊ぶことができた。

<からだ>

重点内容	実践より見られた学びの芽
①体の成長を知ることで、自分の体に関心を持ち、大切にしようとする。	身体計測のとき、自分の身長や体重を聞いたり、歯が抜ける、靴がきつくなることなどを通して体の成長を知り、清潔を心がけたりマナーを守って食事をしたりして心地よく過ごせるようになってきた。
②すすんで戸外で体を動かして遊び、鉄棒等を使った遊びを楽しむ。	園の固定遊具(鉄棒・登り棒・うんてい等)を使い、指先に力を込めて支えたり受け止めたりし、逆上がりや回転などの運動を楽しんでいた。
③「跳び箱」等、手足の力を総合的に使った運動遊びを楽しむ。	力を入れるコツが身につくようになって合理的な姿勢制御ができるようになってくることで、跳び箱の開脚跳び、タイヤの連続跳びなどを楽しむことができるようになった。
④「マット遊び」等、体を柔軟に使う運動遊びを楽しむ。	立位でも手が足先までつくなど柔軟性が増してくるため、手足をつかってバランスをとり、末端部まで力を込めて転がったり、前回りしたりしていた。
⑤水にかかる・浮く等、水に慣れる遊びをする。	プールで「スーパーボールひろい」や「リングぐり」などをして、楽しみながら水に慣れ親しむことができた。
⑥音やリズムに合わせて体の動きをコントロールしたり表現したりする面白さを味わう。	絵本等から内容に沿った動きをイメージしそれを共有し、走る、四つ這い、リズムに合わせて歩調のリズムを変えるなど、様々な動きを楽しんで表現した。
⑦全力でトラックを走ったり、くねくね走や障害物をこえたり、体をコントロールして走ることを楽しむ。	運動会の徒競走やサーキット遊びで、友だちと競い合いながら体の動きを調節したり、力いっぱい走ったりすることを楽しむことができた。
⑧「いす取りゲーム」「こおり鬼」など、歩く・走る・止まるなど体を操作する遊びをする。	「いす取りゲーム」「フルーツバスケット」等を楽しみながら、走ったり、止まったりと素早く体を操作することができた。
⑨ドッチボール、サッカー遊びなど、基本的な動きを多様な動きに発展させるボール遊びを楽しむ。	ルールのあるゲームの中で素早く動いたり、止まったりするなどの制御ができ、ボールを投げる、受け取るなど、重心を移動させながら相手に合わせて柔軟に動きを調整していた。
⑩ゴム跳び、縄跳びなど、全身を使った跳躍運動を楽しむ。	大縄跳びで友だちと力を合わせてより多く跳ぼうと意欲的に運動したり、前跳び・片足跳びなど身体全体を協応させた複雑な運動をしたりしていた。

<しぜん>

重点内容	実践より見られた学びの芽
①身近な草花や生き物に親しみ、自然の不思議さに気付く遊びをする。	カマキリやダンゴムシ等の生き物を飼育し、観察したり調べたりしながら、自然の神秘や生命の大切さを感じ取ることができた。
②土・砂の性質に気付き面白さが分かる遊びをする。	「土だんごづくり」や「泥んこ遊び」で、水分により土の状態が変化することなどに気付きながら遊ぶことができた。
③野菜や花の特徴や生長に興味をもって世話をする。	大きくなる様子を楽しみにしながら、ひまわりや野菜の世話をすることができた。
④吹き流し、紙飛行機、シャボン玉など、風に興味をもち性質に気付く遊びをする。	シャボン玉遊びでは、シャボン玉を作る場所や飛ばす方向を考えるなど、風を意識しながら、遊びを楽しむことができた。
⑤水・泡などの性質に気付き面白さがわかる遊びをする。	泡遊びでは、繰り返し遊びながら、水の量による泡の質の違いに気付いていくことができた。
⑥木の葉や実を集め、自然の変化の不思議さや美しさに気付く遊びをする。	落ち葉や木の実を用いて遊ぶ中で、身近な自然に興味をもち、葉っぱや色の違いに気付き、季節の変化など感じたことを自分の言葉で表現していた。
⑦転がし遊びやゴムのおもちゃ作りなど、物事の法則性に気付き面白さがわかる遊びをする。	「恐竜のたまご」のおもちゃづくりでは、ビー玉の動きにより不規則に動くおもちゃの面白さを感じることもできた。
⑧身近な小動物や生き物の命の大切さに気付く遊びをする。	カマキリやダンゴムシ等、つかまえた生き物について、飼い方を図鑑で調べたり、みんなで話し合ったりして飼育する中で、命の大切さを感じ取ることができた。
⑨雪遊びや生活の変化など、雪や氷、冬の自然のおもしろさや不思議さに気付く遊びをする。	雪の日や霜が降りた日などに戸外で冬の様子を感じたり、いろいろな容器に入れた水を凍らせて変化を楽しんだりした。
⑩スタンドグラスや影踏み遊びなど、光と影に興味を持ち性質に気付く遊びをする。	保育室の窓ガラスにカラーフィルムを張ったスタンドグラス遊びから、色の重なりや曇りの時は映らないなど、気付いたことをニュースの時間に友だちに知らせていた。

<やくそく>

重点内容	実践より見られた学びの芽
①登園してから降園するまでの一日の生活の約束をまもって生活する。	登園時や食事をするときなどの決まりを守り、毎日同じ生活リズムで過ごし、活動の区切りをもちながら1日を過ごすことができた。
②伝承遊びや運動遊びなど、様々なルールのある遊びをする。	友だちとの遊びの中で様々な決まりがあることに気付き、決まりの必要性やその意味を理解し守ろうとしていた。
③みんなで使うものや公共のものの使い方を考える。	自分のものとクラスの共有物の区別をつけ、何をどこに片づけるのか理解して、整頓していた。
④ボール遊びや渦巻きじゃんけんなど、ルールを作る遊びをする。	数人が集まって遊ぶことが増え来ると、遊びをより楽しむために自分たちでルールを作るようになってきた。
⑤当番活動や片づけなどの決まりをすることで、皆が気持ちよく生活できることに気付く。	当番活動で皆のためになる活動をして、「ありがとう」と言われること等を体験して、役割の大切さに気付くことができた。
⑥友だちと意見が違った時など、言葉を交わして解決する経験をする。	遊びの中で、トラブルになったとき等に、必要に応じて教師が仲介しながら、お互いの気持ちを伝え合っ、解決することができた。
⑦大勢の友だちがかかわる遊びを通して、ルールなど工夫したりチームに分かれたりして遊びを発展させる。	リレーのチーム分けをしていくために、友だちの思いも聞きながらチーム決めをしたり、2人で手をつなぐ方法を取り入れ、人数合わせをしたりして工夫していた。
⑧集団生活の流れや時刻を意識し、皆と一緒に行動しようとする。	一日の予定をボードに書いて掲示しておくことで、子どもたちがそれを見ながら見通しをもって生活することができた。
⑨大縄跳びなど、みんなで力を合わせる遊びをする。	大縄跳びでは、より多く跳ぼうと取り組む中で、「〇〇ちゃん頑張れ」等と励まし合っ、力を合わせることもできた。
⑩交通ルールを守って歩くなど、危険から身を守る知識を持つ。	交通安全教室で、交通ルールや危険から身を守る方法についての話を聞き、自身の安全について意識することができた。

<つながり>

重点内容	実践より見られた学びの芽
①異年齢交流や他園との交流、地域の人に触れ合う機会を持つ。	七夕会、お正月遊び等、季節の行事に地域の方々を招き、遊びを教わることができた。

② A L T とはじめましての出会いをする。	A L T との出会いの場面で、お互いに英語であいさつを交わすことを体験できた。
③ 七夕お楽しみ会や運動会にむけて、地域の人や卒園生にあてた絵や文字の招待状をつくる。	行事を楽しみにする中で、身近な人や地域の人とのかかわりを深め親しむを持つことができた。
④ 学校探検などで地域の小学生と交流を持つ。	地域の小学校へ行き、1年生と一緒にゲームをしたり、学校探検をしたりして、小学生と交流を持つことができた。
⑤ A L T の国の歌や手遊びを楽しむ。	A L T と一緒に英語の歌や手遊びを体験し、楽しむことができた。
⑥ 地域の方々や小学生に遊びを教わりながら遊んだり、運動会などに一緒に参加したりする。	入学予定校の運動会に参加したり、高学年の児童と一緒に遊んだりすることで、小学校での活動を体験し、入学に向けての期待感を高めることができた。
⑦ 仕事に関心を持ち、お店屋さんごっこなど役割遊びの中に取り入れ発展させる。	地域のお店たんけんにより興味・関心の対象を広げ、「お店屋さんごっこ」で楽しみながら自分の役割の仕事を手伝うことができた。
⑧ A L T の国の絵本などを楽しむ。	A L T による英語での紙芝居を楽しむことができた。
⑨ 小学校へのあこがれを育てる遊びや活動をする。	元小学校の先生の指導により様々な遊びや活動を行うことで、小学校生活へのあこがれを感じる事ができた。
⑩ A L T の国の冬の行事や遊びの歌を楽しむ。	英語のクリスマスの歌（英語）を A L T と一緒に歌って楽しむことができた。

④ 「しっかりとつなぐ育ちのバトンカリキュラム」の実践の広がり保育の充実

幼児教育アドバイザー巡回や研修会等で、接続カリキュラムに基づく実践の意義を伝え、実践を広めることができた。事業が進展する中で、アドバイザーが必要に応じて園と連絡を取り合っており、日時を決め訪問できるようになったことで、私立の園も含めてアドバイザーの訪問回数が多くなり、カリキュラム実践を広げていくことができた。3年間の取組を通じて、「接続期の保育の充実」というテーマをはっきりさせてアドバイザーが各園を巡回し、園にとって必要な情報を提供していたことが、成果につながったものとする。

平成 29 年度モデル園を始め、カリキュラム実践検証に取り組んだ園からは、「普段の保育で行っていたことだが、小学校の学習につながっていくという視点で保育を展開することの大切さに気づいた。」「カリキュラムの内容を参考にして、新たな活動をおこなったところ、子どもたちが意欲的に取り組めた。」「小学校への接続を考えて取り組むことで、幼児期の『遊び』の大切さを再認識できた」等の意見を得られた。実践・考察を通して、保育者は、子どもの生活・遊びの中で、さまざまな「学びに向かう力」の育ちがあることを再認識することができ、日々の実践の中でそれを「学びの芽」として意識することにより、指導方法の改善につなげていくことができた。

平成 29 年度末に作成・配付した実践事例集は、保育者が具体的な取組のイメージを共有するのに効果的であったようで、事業 3 年目にはその実践がさらに広がり、私立を含め市内の 5 歳児が在園している全ての園からの接続カリキュラムに関連する事例提供を得て、実践交流会を実施することができた。

<参考資料：「しっかりとつなぐ育ちのバトンカリキュラム」実践事例集より>

実践事例

ことば

- ◆ 体験したことを言葉や絵、身振りに表現する。
- ◆ いろいろな絵や形を自由に描く。

話し言葉を十分に使用し、言葉で考えの力が育っていることが、重要な「学びの土台の力」となります。

ひらがな音の前後で1文字がひとつの音を表し、ことばは「音のつながり」ということを理解します。1文字違うだけで意味が変わるだじやれや顔をもむ特なども楽しめます。

絵本や物語に親しみ、自分の気持ちや言葉で表現したり、言葉遊びにしたりします。

図鑑コーナー

絵や模様を描く遊びができるような保育室の環境を整備しておくことで、子どもたちがすすんで小さな枠の中に色を塗ったり、絵を写したりします。

小さな枠の中に絵や模様を描き取り入れることで、絵や形を見て描ける力(視覚-運動統合能力)を育みます。

図鑑で調べる

身近な小動物を継続して観察したり、その特性や食べ物などを図鑑で調べたりしながら、親しみをもって世話をします。

クラス活動で歌うことで、夏だちよ自然に口ずさむ姿があります。歌の中の言葉に親しみ、リズム感をもつたりする楽しさを味わいます。思いの言葉に歌ったり、リズム遊びを楽しんだりして表現の土台を育みます。

かず

- ◆ かんたんな数や量や形の感覚を生活や遊びの中で体験する。
- ◆ 体験したことを数や量や形を使って表現する。

遊びや生活の中で、数・文字に親しむ経験を重ねながら、興味・関心・感覚を深めていきます。

「いらっしゃいませ！」

つながり

心が動くお店屋さん見学したことを言葉で伝え合いながら、お店屋さんやお客さんになり切ります。

かず

なんまいとれるかな？

かず

これは、何円にしようかな

2こ、200えん。

かず

お店屋さんごっこ（準備）

「どうしたらうまくいくな」と相談し、自分たちで役割を決め、工夫したり協力したりする姿も見られます。

かず

カルタ すごろく

文字や数への興味関心が芽生え始めるこの時期に、カルタ遊びを楽しみます。ルールや順番を守ることで友だちと遊びを楽しむことを経験します。

かず

11月は、楽しいとがいっぱい

予定を見て、子どもが話し出します。見直しをもつことの経験となります。

1時間単位の時刻、曜日や時日、今日、明日がわかり、使うことができるようになります。

実践事例

しぜん

- ◆自然や生き物の不思議さや生命の大切さを感じる。
- ◆素材や道具等にかかわり、性質や仕組みに興味関心を持つ。

自然とのかかわり

身近な生き物とかかわる中で、生命の神秘、生命の大切さなども感じ学んでいきます。自分たちで工夫したり調べたりして、より詳しく知ろうとする姿も出てきます。



「カマキリにえさをやろう！」
友だちと手分けしてバツタを捕まえ、カマキリのえさにしています。



ここもいるから、うごかしてみよう。

よし！ Rくん そっちもってな。せへの！

つぎは、これ うごかせよう！

ダンゴムシ発見！

ダンゴムシがプランターの下にいることは経験から知っているため、友だちと協力しながら次々とプランターを動かして、見つけることを楽しんでいます。



ひまわり めっちゃ おおきいどれくらいかな？

わあ〜！ Aちゃんと 2人つながるくらいあるぞ！

ひまわりと背くらべ
ひまわりを育てる中で、花の特徴や生長に興味をもつようになります。また、ひまわりの高さくらべをしたり、花の数を数えたりするなど、測ったり数えたりする機会をもちます。

きょうは、13こ さいてるよ！

かず

自然素材とのかかわり

自然素材そのものに触れて楽しむ中で特性を知り、イメージを広げていきます。

石鹸・泡クリーム
泡あそびを繰り返し遊び込むことで水やせっけんの性質を感じ取ります。水が少ないほうが固い泡ができることに気づくなど、繰り返し素材と関わることで、誤行錯誤して遊ぶ楽しさを味わっていきます。

どうやって このかたい クリームをつくったの？



ぶどうみたい

ことば

カメみたい



シャボン玉
テラスが濡れて水たまりのようになっていこうとシャボン玉が落ちると壊れないことを発見しました。

ちよとつ（思）いれると大きくなった！

オッケー！ ながすよ〜 ここからでいいの？

泥んこ遊び
クラス活動として一つの遊びをすることで、自分たちで役割分担をする姿が見られます。自分のしてほしいことを相手に伝え、その要求にこたえ等協力する姿が見られます。

ここ ちよとつ 水ほしい！

やくそく

土・水に触れることを通して・・・水の感触・土・砂の感触を楽しみ、水に親しむようになり、水が濡れることで状態が変化するなどに気づきます。また、友だちと一緒に工夫したり、力を合わせたりしながら、共同性が育まれます。

実践事例

からだ

- ◆戸外で十分に体を動かす気持ちよさを体験する。
- ◆自分の体に興味関心を持ち大切にしようという気持ちを持つ。

遊びを中心とする身体活動を十分に行うことで多様な動きを身につけ、何事にも積極的に取り組む意欲を育みます。

ボール遊び

スーパーボールひろいやリングくぐりなどの遊びに夢中になって、楽しく挑戦することで、水に対する抵抗をなくします。

何こ ひろえるかな？

かず



大縄とび

友だちが跳ぶのを応援したり、一緒に数を数えたりする中で、自分も積極的に体を動かすようになります。大縄跳びが苦手な友だちが挑戦して、たくさん跳べたことに刺激を受けて、挑戦する意欲が育まれます。

すごいな Kちゃん がんばれ！

かず

マラソン
クラスのみんなや異年齢で、好きな曲に合わせて毎日、体操やマラソンをします。

きょうも マラソン する〜！

やる気ができた！



- ◆友だちと折り合いをつけ、きまりの必要性に気づき、気持ちを調整する。
- ◆基本的な生活習慣を身に付け、健康や安全に気を付けて生活する。

やくそく

ごっこ遊びを通して・・・子どもたちはまわつて見立て遊びからごっこ遊びへと発展させ、遊びの中で友だちとのかかわりを広げながら、自分のイメージを言葉や動作で表現することを学べます。自己主張しながらも、他者を察し止める、協力して遊ぶなど社会性も育まれます。

遊具で修行
共通のアニメの登場人物をイメージして、友だちと一緒にいろいろな遊具に楽しんで取り組もうとします。

わたしも「ドラゴン○○ しゅびよ」する！



ちよと つよくなって 「しゅびよ」になる！



つながり



やくそく

手洗いうがい
外遊びが終わったら、手洗いうがいをします。自分の体に興味をもち、大切にしようとしています。



実践事例

- ◆自分の力で行動する喜びを味わい、協働する体験を重ねる。
- ◆いろいろな人とコミュニケーションをとる楽しさを体験する。

つながり

小学生とも交流を通じて、親しみ気持ちやつながりが育まれ、小学校へのあこがれの気持ちにつながります。

〇〇小学校1年生と
〇〇幼稚園年長児との交流

① 6月30日
『おむすびころりん』群読、歌『世界中の子どもたちが』
じゃんけん列挙 等

② 9月15日
学校探検
グループごとに特別教室の案内やクイズをしました。1年教室では、ランドセルを背負わせてもらう場面もありました。

「むと面白い子もいると思うけど、あと二人にします。」

「他の教室ももっと行きたかったです！」

「音楽のへやが楽しかった〜！」

「じゃんけん列挙、めっちゃ楽しかった〜！」

ALTと外国の歌や手遊びを通して交流の中で、異文化に触れ、積極的コミュニケーションを図ろうとする気持ちが高まります。

ALTとの交流

英語の歌やリズムにあわせた遊び、紙芝居などを行うことで楽しんでいます。ALT（外国語指導助手）の先生と交流することでコミュニケーションを楽しんでいます。

文字のスタンプを一字ずつおして、招待状を書きます。

年少さんに招待状
お店屋さんごっこに年少さんを誘うために、絵や文で招待状を作ります。親しみ気持ちやつながりが育まれ、年長さんとしての自覚が生まれます。

〇〇ちゃん、来てくれるかなあ。

「あつた〜！」

「コマがまわせるようになったよ〜！」

身近な人々とのかわり深め、社会性や認知力を育みます。

祖父母や地域の人と遊ぶ
七夕会、焼き芋会、お正月遊びなど、季節の行事に地域の方々や祖父母を招き、遊びを教わりながら楽しんでいます。

⑤研修会等による保育・幼児教育関係者と学校教育関係者の相互理解の深まり

幼稚園と小学校の双方向からの公開により、参加者がその取組や子どもの様子を互いに知ることができた。保育・幼児教育関係者は、小学校での学びに向かう力として幼児期の子どもに育みたい力を意識し、普段の保育を考えていこうとすることができた。学校教育関係者は、幼稚園・保育所（園）・認定こども園の保育の実態を踏まえた教育のあり方を考えることができた。幼稚園での指導者の細やかな指導や環境構成から、小学校での一斉指導形態の授業を行う上で参考となる気づきも多く得られた。

また、実践報告会・実践交流会には、幼児教育アドバイザー巡回で私立も含め全ての園で趣旨説明を行ったところ、市内全ての5歳児が在園している幼稚園・保育所（園）・認定こども園及び市内全小学校からの参加を得ることができた。保育・幼児教育関係者には、他園の好事例に学ぼうとする姿が多く見られ、学校教育関係者にとっては、就学前段階の子どもたちの育ちを理解し、なめらかな接続をめざした学校教育の在り方を考えることができた。

<参考資料：小学校公開授業・幼稚園公開保育の参加者アンケートより>

◎小学校公開授業での保育関係者の意見

Q：1年生の今の姿につながっているだろうと考えられる園・所での取り組み

- ・遊びの中で心が動くことすべてが言葉の表現になると感じる。こういう実体験が学びの土台になると思う。
- ・遊びを通して、集中・意欲・関心を高めている。この積み重ねが学習意欲につながっていると思う。
- ・姿勢を直すことについては、自園でも「ペタ、ピン、トン」などのような言葉で言い、子どもとともに見直している。
- ・1日の流れやクラス活動について、ホワイトボード等に流れを書いて知らせ、見通しを持たせている。
- ・1日の終わりにどんなことを感じたか振り返りを行い、次の活動へつなげている。また、やってみたいという意欲につなげている。

Q：今後、園・所で、取り組んでいきたいと思うこと

- ・姿勢の保持がしっかりとできるように、繰り返し声掛けをすること。
- ・活動の内容を明確に伝えていくことで、子どもたちのわかりやすいとりくみになり、意欲をもって参加できるようにしていきたい。
- ・1つひとつ丁寧に子どもを認め共感しそれを伝えていきたい。
- ・今後もことばあそび、ことわざあそびなど、文字に親しむ事をたくさん取り入れていきたい。

◎幼稚園公開保育での学校教育関係者の意見

Q：小学校での学びにつながっていくだろうと考えられる幼児の姿

- ・友だちの発表を聴く姿勢。友だちの発表に、質問する、かえす、伝える姿。
- ・子ども一人ひとりがクラスの仲間に関心をもち大事にしている。しっかり聞いている。
- ・先生の指示がなくても、子どもたちが自分から動けるようなしなやかさ（視覚支援、個人への声掛け）がたくさんあった。
- ・挙手して指名されてから発言するなどの話し合いのルールができています。
- ・待ち時間を座って待つ、先生が前にすわったら静かにすわる。

・係りを決めて、自分の仕事をみんなの為に一生懸命している姿

Q：今後、学校での取組に活かしていきたいと思うこと

- ・一つひとつの活動が丁寧。
- ・指示や注意がほとんどなく、ほめる言葉が多かった。
- ・話を聞くときの約束「となりの人にさわりません」のように、めあてをもたせるときはスモールステップで具体的に示すようにしていきたい。
- ・人の話を静かに聞ける子、自分の考えや思いを言葉で伝えられるように、安心して過ごせるクラスづくり
- ・約束をきちんと文字にして書かれていたことが素晴らしいと思いました。
- ・視覚支援を丁寧にしたい。
- ・物の置き場所を分かりやすくすること。（シールをはる、小分けにする、など）

⑥研修の機会の充実

幼児教育研修会に小学校教員が参加する機会をもつことが課題であったが、小学校教員のみ対象の研修会や公開保育研修会、幼児教育研修講座、事業実践報告会・交流会を企画し、就学前から義務教育期を通じた連携の重要性を含めて周知したところ、各小学校からの参加はもちろん中学校教員の自主的な参加も得ることができた。

また、公立幼稚園・保育所の園内リーダーの研修会を平成 30 年度には 2 回開催し、各園での園内リーダーを中心とした幼児教育・保育推進体制の充実につながった。

⑦幼児教育アドバイザーの活用

事業 1 年目の幼児教育アドバイザー巡回は、巡回の目的等の説明と園からの情報を聞き取ることが主な内容となり、巡回数を増やすことも難しい状況であったが、保育を観察して助言を行ったり、各園の取組の好事例を他園に紹介したりすることを繰り返す中で、しだいに園の方からの事例提供や保育内容に関する相談が増えていった。その中で、接続期の保育の在り方についての討議が深まっていった。

幼児教育と学校教育にそれぞれ専門性をもつアドバイザーが、小学校とのなめらかな接続をめざした保育の充実を目的とし、「各園の好事例を見出し、他園に広げる」という姿勢を大切に、指導・助言を行うようにしたことや、「ぱりっ子ピカピカ小 1 学級プロジェクト」と連携して保育内容を検討する形も取り入れながら接続カリキュラムの実践を広めていったこと等が成果につながったものと考えられる。

⑧教育センターを拠点とした部署間連携

本市では、幼児教育センターは未設置であるが、学校教育室と保育幼稚園室の部署間連携によりその機能を果たしている。教育委員会学校教育室と福祉子ども部保育幼稚園室は市役所本庁にあり、以前より主に担当指導主事と保育指導担当室長が連携して幼児教育・保育指導にあたってきた。平成 28 年度より、幼児教育推進の拠点を教育センターとし、幼児教育アドバイザーを当センターに配置して、情報交換、カリキュラム作成に係る作業、検討会、研修会等を行っている。

教育センターには、福祉子ども部子ども発達支援センターもあるため、各園での保育をより深く検討することができる。また、教育センターは、保育関係、教育関係職員の研修の場となっており、そこに幼児教育アドバイザーが配置されていることで、幼児教育アドバイザーを活用した各校園での保育・教育の充実につながっている。

(3) 課題

①幼児教育アドバイザーの配置

- 事業終了後も幼児教育アドバイザーの配置が必要である。
- 幼児教育アドバイザーによる園訪問を継続し、それぞれの園の実態に配慮しつつ、接続期カリキュラムに基づく保育実践について助言できるよう、教育センターに幼児教育アドバイザーを継続配置する方向で検討する。

②「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」に基づく実践の推進

- 公立幼稚園・保育所では、カリキュラムに基づく実践を進め、園内リーダーによる事例検討を行う等、推進体制が整っていったが、さらに市内私立幼稚園、保育園での実践を推進していく。
- 0 歳の段階から 5 歳の終わりまでに育てたい姿を見通した保育システムを考える。

③研修機会の充実

- 幼児教育研修講座の充実を図り、幼稚園教諭・保育士・小学校教諭がともに学ぶ研修会を継続して開催できるようにする。
- 公開保育・公開授業を継続して実施する。実施時期については、学校や園の行事等の状況を考慮し、教員・保育士・保育教諭が参加しやすいようにする。
- 「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」の実践に向けて「園内リーダー研修会」を継続実施する。
- 園内リーダー研修会への私立からの参加が得られるよう検討する。

5. 事業終了後の展望

- 幼児教育アドバイザーの配置を継続し、教育センターを拠点として、幼児教育・保育、接続期の教育に関する巡回指導や教育相談を行う。
- 「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」の実践を拡大させるとともに、実践交流会や公開保育・公開授業といった研修の場を継続してもち、接続期の教育・保育の質をさらに高める。